

件の大和屋が三年酒をはつたりと爛をいたして、勝手から持て参れば、時分はよきぞはや盛れと、大盃は脇になつて、中碗平皿後は錫鉢にて、合ひの又合ひ、大あひと申し出して、略下

〔傾城色三味線湊之巻〕詞に角のた、ぬ丸山の口舌

空眼して隣を聞けば、略中 慥に長崎詞と覺へたり、何卒是は仕掛次第で一盃は吞めさふなものと、鼻をやめて火繩取出し、御むつかしながら火を一ツと差出せば、火も進上いたさふず、まづ此間をして下されと、中碗をあてがへば、望む所とむく起きにして、何方のお盃でござります、お手元見まして、お問いたさふと罷出れば、略下

〔和漢三才圖會三十一〕盃中

中碗一名四目又名蓋一名蓋一名

〔萬葉集四〕粟田娘子贈大伴宿禰家持歌二首

思遣爲便乃不知者オモヒヤルスベノシラネバ片カタ坑クナ之ノ底ソコ會アヒ吾ワレ者ハ戀コヒ成ニ爾ニ家ケル類

〔萬葉集略解四下〕片カタ坑クナといふは、合子に對して、蓋なきをいへり、

〔儀式三〕踐祚大嘗祭儀

次各受大膳職略中 片碗六十口中略已上依三國解所充

〔延喜式四一〕供神今食料

土片碗廿口

〔延喜式五〕供新嘗料

片碗廿口陶

〔配酌法用〕碗の笠取様の事

碗にふた有之事、ごみほこり不入様との事也、略下